

分別収集による可燃ごみの減量効果は減っているが、分別の徹底が大きな課題



織田昭雄 議員

質問 プラスチック類の分別収集で、可燃ごみの減量効果は。月に二回収集の効果は。

答弁 プラスチック類は四月に3トン、五月に5トンが収集され、少なくともその分は、可燃ごみが減ることになるわけですが、まだ多くのプラスチック類が可燃物として出されているのも現実です。分別の徹底が大きな課題だと認識しています。多くの町民からの要望で六月からは、月2回の収集をしています。分別が徹底され、資源物の排出量が多くなれば、収集回数や収集方法を検討しなければならぬと考えています。また、集積所での収集

も可能であると考えています。なお、現在は収集時に区の役員の方に立ち会っていただいています。回数や場所が増えれば、役員の負担も増えることになるので、その点も合わせて考えていただきましたと思います。

○その他の質問事項
・パノラマリゾート再生計画
・市街地活性化について



収集された容器包装プラスチック等（富里区）



名取武一 議員

有害鳥獣対策を今後どのように進めるのか 電牧柵設置と固体数の調整で進める

質問 西山地区の有害鳥獣対策の経過と、今後の予定は。二つの中山地域の対策は。

答弁 有害鳥獣の侵入を防ぐために、県境・山林との境に電牧柵を設置し、これにより住み分けを図ります。

また、個体数を調整するため、わな・銃器による捕獲を行っています。

今年度は南諏衛生センターから花場までの電牧柵を設置する予定で、花場から若宮までは、平成20年度事業として、県に

要望して行きます。

中山地域では、二ホンジカが相当数目撃されていますので、周辺に檻、わなを仕掛け、一斉駆除を推進します。

電牧柵での囲い込みが完成すれば、追い払い、捕獲の相乗効果があらわれると期待しています。

○その他の質問事項
・国民健康保険
・ゴミの減量化
・所得税・住民税増税対策

について